

# 東京都新宿区 新宿せいが子ども園 第13回 成長展 今年度のテーマ 「新宿」

第156号 2020年2月24日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

## 『成長展』

昨年は会話の中の「察する力」がテーマのようでしたが、今年は、相手に自分の気持ちを伝えるなどの『表現する力』に目を向けて、クラスごとに子どもたちの成長が紹介されていました。

また、「ほけん」からも「表現する力」について研究発表がされていました。人の体の部位の名称を認識していて、それをいつから言葉で表現できるか、発達の経過とケガをした時の表現について映像からの発表も行われていました。

次回のレポートでは、成長展についての考え方などについて、新宿せいが子ども園の園長 藤森先生からお話し頂いた内容をお送り致します。

昨年の成長展の準備について、せいが職員へインタビューした記事もありますので、ご興味のある方は[こちらの](#)レポートも合わせてご覧ください。





# ほけん

**今年の成長展では・・・**

いつから子どもたちが、人の体の部位の名称を認識していて、それをいつから言葉で表現できているか、発達経過とケガをした時の表現の発達を日頃の様子の映像からも観て頂きたいと思えます。

## 表現・・・心におもうこと 感じることを表にだすこと

昨年の成長展では、この表現をするために必要な 聞く力・話す力の大切さを“痛み”という感覚を通して発表しました。

保健が大切にしていること  
どうした？ どこが痛いの？

体の異常や痛みを伝える会話のやり取りが、当園 1 歳児ではクラスの約 50% できるようになり、  
2 歳児では、ほぼ 100% できていることを子どもたちに声をかけ、自分の言葉で伝えてくるのを待ってみることで、コミュニケーション能力を高め、一人一人の話す力、聞く力に繋がります。  
昨年の発表でお伝えしました。  
(ミマモリングの結果より)



さらに  
にこにこくみ（2 歳児クラス）では・・・  
体の異常や痛みを伝えることに加え、  
〇〇がいたい と痛い部位を特定し、  
言葉で伝えられるお子さんは、  
にこにこくみの 30% になっています



**にこにこくみ**

聞き取りは、返事を言葉で表現するようにしてみました。  
こは？なんていうの？というように・・・

ぐんぐんくみで 14% の子しか分らなかった言葉は、1 年間で 80% の子が分かるようになっていました。  
ひじは 4 名の子が分かっていました。

〇〇がいたい と痛い部位を特定し、言葉で伝えられるお子さんは、にこにこくみの 30%  
(昨年の発表で)

体の部位を理解して、感じていることを言葉で表現して伝えられるようになってきていることが、映像でも分かれます。

